

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
鷹田佳典			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
浅川 達人		明治学院大学 社会学部 社会学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会教育調査実習	MJGa-150701-0	6人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

学生たちは、先行研究・関連資料の収集、インタビュー・ガイドの作成、インタビューの実施、逐語録の作成、データ分析、報告書の執筆を行った。本年度は二つのグループに分かれて作業を行った。いずれの班もインタビュー調査を行ったが、直接協力者にお会いして生の経験を聞き出す難しさと魅力を感じたようだった。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

男性の育児参加パートIII - 子育てしやすい社会に向けて

2. 調査の内容／概要：

- 1) 子どもをもつ4名の女性にインタビューを行い、妻の視点からみた夫の家事育児への関わりについて検討した。
- 2) コレクティブハウスで暮らす5世帯、8名の入居者にインタビューを行い、CHでの子育てと暮らしについて検討した。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

- 1) 子どもを持つ女性4名
- 2) コレクティブハウスの入居者8名

4. 主な調査項目：

- 1) 育児休業の取得状況、普段の生活、夫の家事育児への関わりに対する思い、子育て支援、今後のキャリアプラン
- 2) CHへの入居の経緯、普段の暮らし、CHで暮らしてよかったこと・大変なこと、CHでの子育て

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

- 1) 2) 共に、関係者へのインタビュー調査を実施した

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

- 1) 夏休み・都内及び都内近郊・各回3名（教員含む）
- 2) 11月～12月・都内・各回3～4名（教員含む）

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収率及び回収率を必ず記入）：

- 1) 4名の協力者のうち、2名は夫が育休を取得、2名が未取得ということで、バリエーションのあるデータが得られた。
- 2) 子育て世帯だけでなく、単身で暮らす入居者にもインタビューを行うことができた。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

- 1) KJ法を採用（逐語録作成 セグメント化 見出し作成 グループ化 表札作り 図解化 ストーリー化）
- 2) 質問項目毎に協力者の語りを分類し、内容に即した分析を行った。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

- 1) 男性の育休取得については一定の評価をしつつも、主体的な家事育児への関わりが不可欠である。
- 2) CHでは仲の良い近所同士のようなつながりのなかで、制度を柔軟に活用しつつ、子育てが行われていた。

10. 報告書刊行の予定と概要：

『社会調査実習報告書 Vol.32』2016年3月発行。